



## キャッシュレス時報 CASHLESS JIHO

長内 智

(株)大和総研  
金融調査部  
主任研究員

### 第18回 ポイント投資で現金いらずの資産運用

#### ◎ 広がる「ポイント投資」サービス

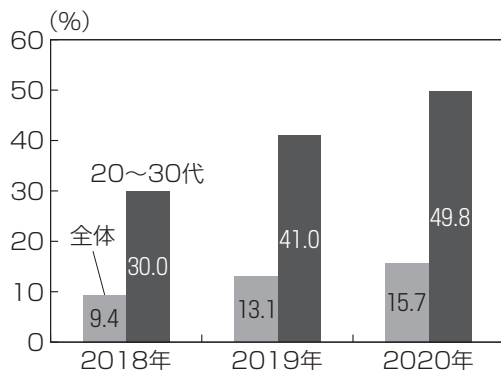
##### ● 若年層の約5割はスマホで証券取引

近年、20～30代の若年層は、株や投資信託の注文を「パソコン」でなく、「スマホ」で行うようになっていきます。

日本証券業協会のアンケート調査によると、2020年にスマホを用いて注文した割合は、全体が15.7%にとどまる一方、20～30代は49.8%と約半数に達し、スマホが最も多い注文方法となっています（図表参照）。ここ3年間でスマホの割合が年々上昇してきたこともわかります。

さらに、最近、若年層を中心に新たな投資サービスとして注目され始めているのが、スマホなどで少額かつ気軽に投資ができる「ポイント投資」です。

【図表】 スマホを用いた注文割合の推移



(出所) 日本証券業協会「個人投資家の証券投資に関する意識調査報告書」(各年)より大和総研作成

##### ● 貯まったポイントを元手に投資

ポイント投資とは、日々の買い物でのクレジットカード払いやスマホ決済などで貯まったポイントを元手に投資するというサービスです。

実際の投資方法により、①ポイントを現金化して株式や投資信託の購入代金として利用するタイプ、②現金化せずにポイントを運用会社に預けたまま疑似的に運用するタイプの2つに大きく分類されます。後者は、「ポイント運用」と呼ばれることもあります。

また、投資であるため、運用する金融商品やポイントの金銭的価値が増減します。ただ、貯まっていたポイントを利用して少額から始められることで投資に対する心理的なハードルが低くなり、これまで投資に慎重であった若年層を中心に利用者が徐々に増加しています。

##### ● 証券会社側のねらいとは？

現在、ポイント投資サービスを提供する証券会社が増えていますが、少額投資が多いという性質上、同サービスの収益性は相対的に低くなります。それでは、なぜ証券各社は、ポイント投資サービス分野に相次いで参入しているのでしょうか。

その主な理由として、若年層を呼び込み長期的な顧客の裾野を広げたいという証券会社側のねらいがあると考えられます。つまり、ポイント投資サービスを活用して、将来の重要な顧客となりうる現在の若年層の早期囲い込みを図ろうというわけです。



## ① ポイント投資のメリットと課題

### ● キャッシュレスで投資が可能

投資家にとってのポイント投資のメリットとしては、以下の3点が挙げられます。

1つ目は、現金がいらず、「キャッシュレス」で投資を始められるという点です。従来は、現金で投資資金を準備する必要がありましたが、ポイント投資では、日々の買い物などを通じて自然に貯まったポイントを有効活用できるという点が大きな利点だといえます。

2つ目は、少額かつポイントを用いた投資であるため、損失リスクに対する不安を抑えられるという効果があります。仮に投資によって損失が発生しても、元手がこれまで貯まっていたポイントであることから、損失に伴う心理的ダメージが現金の場合に比べて小さくなると一般に考えられるためです。

3つ目は、投資初心者「投資の入口」として有力な選択肢となり、新たに投資を始めることで投資の知識や経験も得られるという点が挙げられます。投資に関心はあっても、なかなか投資に踏み切れないという人が多い中、ポイント投資をきっかけに投資を始めた人が少しずつ増えています。

### ● あくまでも投資の第一歩

ポイント投資には課題もあります。例えば、老後生活に向けた資産形成という面において、投資額が不十分という点が挙げられます。

投資の元手がポイントであるため、実際の投資額は少額となるケースが多いと想定されます。その場合、運用による利益率が多少高くなったとしても、実際の利益額と金融資産の増加額は限定的なものにとどまると考えられます。

また、従来の投資に比べて投資対象が限られるという問題もあり、投資経験を重ねていくうちに物足りなさを感じる可能性があります。

ポイント投資は、あくまでも投資の第一歩という視点で始めるのがよいと思います。

## 新型コロナ下で高まる投資熱

### ● 巣ごもり消費の裏で投資も活発化

新型コロナ下では、営業と外出の自粛や在宅勤務要請によって自宅で過ごすことが多くなり、ネットショッピングや料理宅配サービス、有料動画配信、オンラインゲームといった「巣ごもり消費」が急拡大し、クレジットカードを中心にキャッシュレス決済額も増加しました。

家計金融分野に関しては、新型コロナ下の株価急落局面を好機と捉え、投資を新たに始めた人や投資額を積み増した人が増えたという点が注目されます。

日本証券業協会のアンケート調査によると、株式保有者のうち新型コロナウイルスの感染拡大以降に初めて株式を購入した、又は投資額を増やした人の割合は20～30代が最も高く、約40%に達しています。また、インターネット証券会社の公表資料や各種報道によると、新型コロナ下で新規口座開設数が大幅に増加しており、とりわけ20～30代で新たに投資を始めようという人が増えているようです。

### ● 若年層の投資を促す老後不安の高まり

過去を振り返ってみると、2008年のリーマン・ショック後などの金融危機に伴う株価急落局面で証券口座の開設数が大きく伸びたケースが見られました。新型コロナ下では、株価急落に加え、自宅で過ごす機会が増加し、将来のための資産形成を考える時間ができたことも投資を始めるきっかけになった可能性があります。

さらに、若年層に関しては、2019年半ば以降のいわゆる「老後資金2,000万円問題」を契機に、老後生活に対する不安が高まったことも投資を促す要因になっていると考えられます。将来への備えとして、預貯金よりリスクはあっても高いリターンも期待できる投資を始めようという人が増えているのです。

今後は、キャッシュレスでポイント投資を始めた若年層のうち、どの程度が本格的な投資に踏み出すかが注目されます。